

## デジタル接写リングセット 使用説明書

純正レンズ &  
レンズメーカー製  
レンズ用

デジタル  
一眼レフ※

35 mm  
フィルム  
一眼レフ

この度は、デジタル接写リングセットをお買い上げいただき誠にありがとうございます。デジタル接写リングセットは、長さの異なる3個のリングで構成されていますので、単体および組み合わせにより7通りの長さで使用できます。マウントごとに説明をしてありますので、ご自分のカメラマウントの使用説明をよく読み、十分に理解してから正しくお使いください。

## 安全上のご注意

安全のため、ご使用前には必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みになり、それぞれの注意事項をおまもりください。

本説明書では、危険をその内容、程度に応じ、次の2種類に分けています。

### 警告

この指示に従わないで誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

### 注意

この指示に従わないで誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性があります。また、物的損害が発生する可能性があります。

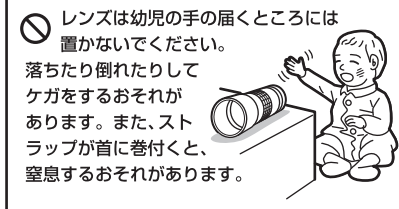
本説明書では、次のような絵表示を使用しています。

△は、注意が必要な内容があることを示しています。図の中に描かれているのは注意の内容です。(左図は発火注意)

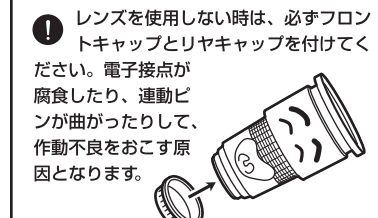
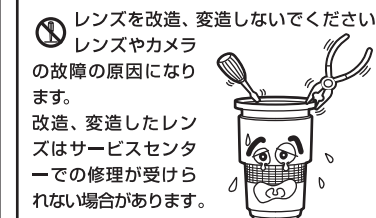
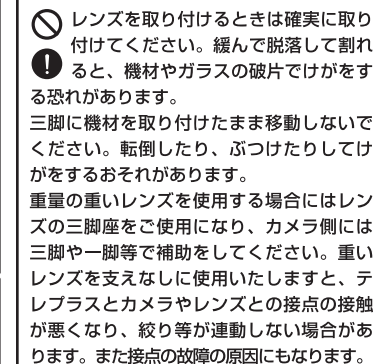
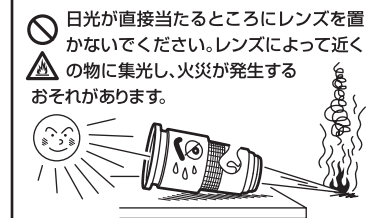
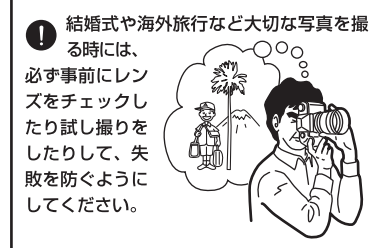
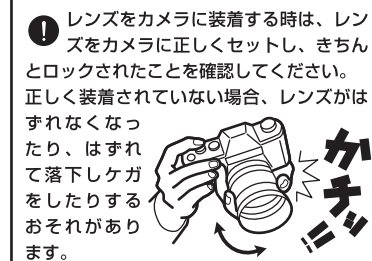
⊘は、禁止を示しています。図の中に描かれているのは禁止の内容です。(左図は分解禁止)

●は、指示を示しています。図の中に描かれているのは指示の内容です。(左図は注意する旨の指示)

## 警告



## 注意



## キャノンEOS EF・EF-S用

### カメラへの脱着

1. メインスイッチをLOCK (OFF) にし、マスターレンズをカメラから取り外します。
2. 接写リング前部 (マスターレンズ側) の赤点とマスターレンズマウント部の指標を合わせてはめ込み、時計回りに「カチッ」と音がするまで回します。
3. 接写リング後部 (カメラボディ側) の赤点をカメラボディの指標に合わせてはめ込み、時計回りに「カチッ」と音がするまで回します。  
※装着の際、「カチッ」と音がするのを必ず確認してください。  
※装着時はリングの長さの合計が、マスターレンズの焦点距離よりも短くなる組み合わせでご使用ください。  
※バッテリーが消耗している場合や装着が不完全な場合、カメラに「bc」が表示されミラーアップする場合があります。この場合、カメラからレンズおよびテレプラスを取り外し、シャッターボタンを半押ししてミラーアップを解除した後、バッテリー等の確認を行ってください。
4. 取り外しは、装着と逆の手順で行ってください。  
※EF-Sマウントにご使用いただけます。  
※EOS-1D XIには使えません。  
※Aタイプレンズには、取り付けできません。  
※接写リングのみをカメラに取り付けた状態でシャッターボタンを押すと、ミラーアップ状態となって停止することがあります。この場合は、再度シャッターボタンを押してください。

### 接写リングの組み合わせ順序

接写リングを2個または3個使用する場合、組み合わせ順序は自由です。ただし、レンズの種類や組み合わせによりましては逆光撮影時に鏡筒内面反射によるフレアーを起こす場合がありますので、予めテスト撮影をお勧めします。

### レンズの適合性について

- ・使用する接写リングの鏡筒長より短い焦点距離のマスターレンズは使用しないでください。  
広角レンズやズームレンズの広角側では、レンズ先端や内部にピン트가きてしまうためピン트가合わなかつたり、被写体に近すぎて適性露出が得られない場合がありますので50mm位から中望遠程度のレンズのご使用をお勧めします。また、広角になるほど合焦範囲はせまくなります。
- ・望遠レンズ、超望遠レンズ、望遠マクロレンズ (マクロレンズ)、望遠ズームレンズでは諸条件によっては画面の四隅にケラレが生じる場合があります。

### 露出の決め方

- 接写リングはTTL・AE連動です。露出倍数は自動補正しますが、スポット測光は使用できません。またプログラムストロボ、内蔵ストロボは使用できません。マニュアルストロボを使用する場合、ガイドナンバーより算出されたF値から露出倍数分を補正したF値を基本としてテスト撮影の上、適正露出を求めてください。詳しい露出倍数などは取扱説明書の巻末の表や式より算出して下さい。
- ※EOS-1Nのファインスポット測光およびEOS-1、EOS 5のスポット測光は適正露出となりませんので使用しないでください。
- ※EOS-1N、EOS-1、EOS 5では+1段程度の補正となります。テスト撮影の上、露出補正量を決めて撮影をしてください。

### 合焦機能について

- ・単体使用に限りAFが作動しますが、合焦範囲がせまくなっていますので、マニュアルフォーカスに切り替えてピン트가合わせをしてください。
- ・接写時のピン트가合わせではフォーカスリングによる合焦よりもレンズと被写体との距離を体を前後させるなどして調節しピン트가合わせた方が、素早く確実にピン트가合わせができます。また、フォーカスリングを回転させることにより像倍率の微調整ができます。
- ・バッテリーが消耗している場合、AFでのピン트가合わせができない場合があります。バッテリーが完全に消耗していない場合でも、AFでのピン트가合わせができない場合はバッテリーを交換してください。
- ・接写リング使用時は動物予測AFが正常に動かない場合があります。

## 仕様

鏡筒長	全長	重量
12mm	20mm	65g
20mm	27.5mm	70g
36mm	43.5mm	80g

### 使用についてのご注意

- ・ケンコーデジタル接写リング25やテレプラスおよびエクステンダーの複数接続でのご使用はおやめください。
- ・本製品はキャノン純正レンズおよびトキナーレンズに対応しております。
- ・作動不良の原因となりますのでIS(手ブレ補正機構)はOFFにしてお使いください。
- ・接写撮影では被写界深度が浅くなりますので、できるだけ絞り込んで撮影してください。像倍率が大きくなるにつれて手ぶれが生じやすくなりますので、三脚やレリーズの併用をお勧めします。
- ・ファインダーからの逆入光の影響が接写リング使用にはマスターレンズだけの場合よりも強く出ますので、ファインダーからの逆入光が生じる場合にはカメラの説明書に従い逆入光をカットしてください。
- ・電気接点を持たないマスターレンズには使用できません。
- ・接写リング使用時には、∞にピン트는合いません。撮影距離は、レンズの焦点距離によって変化します。
- ・本製品をお使いにならないときは、カメラから取り外して、電気接点などに汚れやキズが付かないようにレンズキャップを指標に合わせて装着し保管してください。

## ニコン用

### カメラへの脱着

1. カメラのメインスイッチをOFFにし、マスターレンズをカメラから取り外します。
2. 接写リング前部 (マスターレンズ側) の赤点とマスターレンズマウント部の指標を合わせてはめ込み、反時計回りに「カチッ」と音がするまで回します。
3. 接写リング後部 (カメラボディ側) の赤点をカメラボディの指標に合わせてはめ込み、反時計回りに「カチッ」と音がするまで回します。  
※装着の際、「カチッ」と音がするのを必ず確認してください。  
※装着時はリングの長さの合計が、マスターレンズの焦点距離よりも短くなる組み合わせでご使用ください。  
※EOS-1N、EOS-1、EOS 5では+1段程度の補正となります。テスト撮影の上、露出補正量を決めて撮影をしてください。
4. 取り外しは、装着と逆の手順で行ってください。

### 接写リングの組み合わせ順序

接写リングを2個または3個使用する場合、組み合わせ順序は自由です。ただし、レンズの種類や組み合わせによりましては逆光撮影時に鏡筒内面反射によるフレアーを起こす場合がありますので、予めテスト撮影をお勧めします。

### レンズの適合性について

・使用する接写リングの鏡筒長より短い焦点距離のマスターレンズは使用しないでください。広角レンズやズームレンズの広角側では、レンズ先端や内部にピントがきてしまうためピントが合わなかったり、被写体に近すぎて適性露出が得られない場合がありますので50mm位から中望遠程度のレンズのご使用をお勧めします。また、広角になるほど合焦範囲はせまくなります。

・望遠レンズ、超望遠レンズ、望遠マクロレンズ(マクロレンズ)、望遠ズームレンズでは諸条件によっては画面の四隅にケラレが生じる場合があります。

#### 露出の決め方

接写リングはTTL・AE連動です。露出倍数は自動補正しますが、スポット測光は使用できません。またプログラムストロボ、内臓ストロボは使用できません。マニュアルストロボを使用する場合、ガイドナンバーより算出されたF値から露出倍数分を補正したF値を基本としてテスト撮影の上、適正露出を求めてください。詳しい露出倍数などは取扱説明書の巻末の表や式より算出して下さい

#### 絞り値の表示について

〈液晶パネル採用のカメラの場合〉

ダイヤルで絞り値をセットする場合は、必ずマスターレンズの絞りを最小絞りにロックしてください。ロックされていない場合は、エラー表示が出ないで動作してしまいますのでご注意ください。

〈直窓式表示のカメラの場合〉

絞り値は絞りリングでの確認となります。

#### 合焦機能について

- 単体使用に限りAFが作動しますが、合焦範囲がせまくなっていますので、マニュアルフォーカスに切り替えてピント合わせをしてください。
- 接写時のピント合わせではフォーカスリングによる合焦よりもレンズと被写体との距離を体を前後させるなどして調節しピントを合わせを行った方が、素早く確実にピント合わせができます。また、フォーカスリングを回転させることにより像倍率の微調整ができます。
- バッテリーが消耗している場合、AFでのピント合わせができない場合があります。バッテリーが完全に消耗していない場合でも、AFでのピント合わせができない場合はバッテリーを交換してください。
- 接写リング使用時は動体予測AFが正常に働かない場合があります。
- 接写リング使用時は被写界深度が浅くなるため、マニュアルフォーカスでピント合わせを行う際、合焦マークが点灯しない場合があります。

#### 仕様

鏡筒長	全長	重量
12mm	21mm	72g
20mm	28mm	84g
36mm	44mm	112g

#### 使用についてのご注意

- ケンコーデジタル接写リング25やテレプラスおよびテレコンバーターの複数接続でのご使用はおやめください。
- 本製品は二コン純正レンズおよびトキナーレンズに対応しております。
- 作動不良の原因となりますので VR(手ブレ補正機能)はOFFにしてお使いください。
- 接写撮影では被写界深度が浅くなりますので、できるだけ絞り込んで撮影してください。像倍率が大きくなるにつれて手ぶれが生じやすくなりますので、三脚やレリーズの併用をお勧めします。
- ファインダーからの逆入光の影響が接写リング使用にはマスターレンズだけの場合よりも強く出ますので、ファインダーからの逆入光が生じる場合にはカメラの説明書に従い逆入光をカットしてください。
- 接写リング使用時には、∞にピントは合いません。撮影距離は、レンズの焦点距離によって変化します。
- 本製品をお使いにならないときは、カメラから取り外して、電気接点などに汚れやキズが付かないようにレンズキャップを指標に合わせて装着し保管してください。

## ソニーα用

#### カメラへの脱着

- カメラのメインスイッチをLOCK (OFF) し、マスターレンズをカメラから取り外します。
- 接写リング前部(マスターレンズ側)の赤点とマスターレンズマウント部の指標を合わせてはめ込み、時計回りに「カチッ」と音がするまで回します。
- 接写リング後部(カメラボディ側)の赤点をカメラボディの指標に合わせてはめ込み、時計回りに「カチッ」と音がするまで回します。
  - ※メインスイッチをONにしたまま装着しますと、MFOCUSや「-」が表示され撮影状態にならない場合があります。その場合、一度シャッターを半押ししてから撮影を行ってください。
  - ※装着の際、「カチッ」と音がするのを必ず確認してください。
  - ※装着時はリングの長さの合計が、マスターレンズの焦点距離よりも短くなる組み合わせでご使用ください。
- 取り外しは、装着と逆の手順で行ってください。
  - ※インテリジェントカードとの併用はできません。

#### レンズの適合性について

- 使用する接写リングの鏡筒長より短い焦点距離のマスターレンズは使用しないでください。広角レンズやズームレンズの広角側では、レンズ先端や内部にピントがきてしまうためピントが合わなかったり、被写体に近すぎて適性露出が得られない場合がありますので50mm位から中望遠程度のレンズのご使用をお勧めします。また、広角になるほど合焦範囲はせまくなります。
- 望遠レンズ、超望遠レンズ、望遠マクロレンズ(マクロレンズ)、望遠ズームレンズでは諸条件によっては画面の四隅にケラレが生じる場合があります。

#### 露出の決め方

接写リングはTTL・AE連動です。露出倍数は自動補正しますが、スポット測光は使用できません。またプログラムストロボ、内臓ストロボは使用できません。マニュアルストロボを使用する場合、ガイドナンバーより算出されたF値から露出倍数分を補正したF値を基本としてテスト撮影の上、適正露出を求めてください。詳しい露出倍数などは取扱説明書の巻末の表や式より算出して下さい。

#### 合焦機能について

- 単体使用に限りAFが作動しますが、合焦範囲がせまくなっていますので、マニュアルフォーカスに切り替えてピント合わせをしてください。
- 接写時のピント合わせではフォーカスリングによる合焦よりもレンズと被写体との距離を体を前後させるなどして調節しピントを合わせを行った方が、素早く確実にピント合わせができます。また、フォーカスリングを回転させることにより像倍率の微調整ができます。
- バッテリーが消耗している場合、AFでのピント合わせができない場合があります。バッテリーが完全に消耗していない場合でも、AFでのピント合わせができない場合はバッテリーを交換してください。
- 接写リング使用時は動体予測AFが正常に働かない場合があります。
- 接写リング使用時は被写界深度が浅くなるため、マニュアルフォーカスでピント合わせを行う際、合焦マークが点灯しない場合があります。
- αxiシリーズ以前のαシリーズカメラをお使いの場合、マニュアルフォーカスのできないレンズにはご使用できません。
- αxiシリーズのレンズをお使いの場合、テレプラス使用時はマニュアルフォーカスでのピント合わせがしづらくなります。

#### 仕様

鏡筒長	全長	重量
12mm	17mm	74g
20mm	25mm	83g
36mm	40.5mm	106g

#### 仕様

鏡筒長	全長	重量
12mm	17mm	74g
20mm	25mm	83g
36mm	40.5mm	106g

#### 使用についてのご注意

- ケンコーデジタル接写リング25やテレプラスおよびテレコンバーターの複数接続でのご使用はおやめください。
- 本製品はソニー、コニカミノルタ純正レンズおよびトキナーレンズに対応しております。
- 作動不良の原因となりますのでボディ内手ブレ補正機能はOFFにしてお使いください。
- 接写撮影では被写界深度が浅くなりますので、できるだけ絞り込んで撮影してください。像倍率が大きくなるにつれて手ぶれが生じやすくなりますので、三脚やレリーズの併用をお勧めします。
- ファインダーからの逆入光の影響が接写リング使用にはマスターレンズだけの場合よりも強く出ますので、ファインダーからの逆入光が生じる場合にはカメラの説明書に従い逆入光をカットしてください。
- 電気接点を持たないマスターレンズには使用できません。
- 接写リング使用時には、∞にピントは合いません。撮影距離は、レンズの焦点距離によって変化します。
- 本製品をお使いにならないときは、カメラから取り外して、電気接点などに汚れやキズが付かないようにレンズキャップを指標に合わせて装着し保管してください。

- 〈αxiシリーズでのご使用について〉
- イメージインジケーターは適正表示になりません。
- 同じ焦点距離でもマスターレンズのみとオート接写リング使用時ではオートスタンバイズームの構図が異なる場合があります。

像倍率・露出倍数						
使用リング	レンズ焦点距離	距離目盛り	像倍率	撮影範囲(cm)	露出倍率	
①	12mm	50mm	∞	0.24	10X15	1.54
			1m	0.29	8.3X12.4	1.66
		70mm	∞	0.17	14.1X21.2	1.37
1m	0.25		9.6X14.4	1.56		
②	20mm	50mm	∞	0.40	6.0X9.0	1.96
			1m	0.45	5.3X8.0	2.10
		70mm	∞	0.29	8.3X12.4	1.66
1m	0.36		6.7X10.0	1.85		
③	36mm	50mm	∞	0.72	3.3X5.0	2.96
			1m	0.77	3.1X4.7	3.13
		70mm	∞	0.51	4.7X7.1	2.28
1m	0.59		4.1X6.1	2.53		
① + ②	32mm	50mm	∞	0.64	3.8X5.6	2.69
			1m	0.69	3.5X5.2	2.86
		70mm	∞	0.46	5.2X7.8	2.13
1m	0.53		4.5X6.8	2.34		
① + ③	48mm	50mm	∞	0.96	2.5X3.8	3.84
			1m	1.01	2.4X3.6	4.05
		70mm	∞	0.69	3.5X5.2	2.84
1m	0.76		3.2X4.7	3.10		
② + ③	56mm	50mm	∞	1.12	2.1X3.2	4.49
			1m	1.17	2.1X3.1	4.72
		70mm	∞	0.80	3.0X4.5	3.24
1m	0.88		2.7X4.1	3.52		
① + ② + ③	68mm	50mm	∞	1.36	1.8X2.6	5.57
			1m	1.41	1.7X2.6	5.82
		70mm	∞	0.97	2.5X3.7	3.89
1m	1.05		2.3X3.4	4.19		

- 表の値は一般値ですのでレンズの種類によっては表中の数値と若干異なることがあります。
- 像倍率とは被写体とフィルム面に結像し画面の大きさ（長さ）の比率です。例えば像倍率0.24倍とは1cmの被写体がフィルム面上では1X0.24=0.24つまり0.24cmの大きさに写ることになります。
- 同じ長さの接写リングを使用した場合、像倍率はマスターレンズの焦点距離が長くなるほど小さく、短くなるほど大きくなります。また、被写体までの距離はマスターレンズの焦点距離が長くなるほど遠く、短くなるほど近くなります。
- 焦点距離が50mm、70mm以外のレンズでは下式にて計算してください。

<p><b>像倍率</b>=<span><span>    ( 接写リングの長さ ) + ( マスターレンズの繰り出し量 )   マスターレンズの焦点距離   {\displaystyle {\frac {(接写リングの長さ)+(マスターレンズの繰り出し量)}{マスターレンズの焦点距離}}}  </span></span></p>
--

<p><b>露出倍数</b>=<span><span>    ( 1 + 像倍率 )  2     {\displaystyle (1+像倍率)^{2}}  </span></span></p>
---

<p><b>マスターレンズの繰り出し量</b>=<span><span>      マスターレンズの焦点距離  2     ( マスターレンズの焦点距離 )  2     ( マスターレンズの距離目盛り ) −<!-- − --> ( マスターレンズの焦点距離 )   {\displaystyle {\frac {マスターレンズの焦点距離^{2}}{(マスターレンズの焦点距離)^{2}(マスターレンズの距離目盛り)-(マスターレンズの焦点距離)}}}  </span></span></p>
---

<p><b>撮影範囲</b>=<span><span>       フィルム面上の画面サイズ   像倍率     {\displaystyle {\frac {フィルム面上の画面サイズ}{像倍率}}}  </span></span></p>
--

<span></span>	<span></span>
<span></span>	<span></span>
<div>株式会社 ケンコー・トキナー</div> <div>URL：http://www.kenko-tokina.co.jp/</div>	
<div>本社</div> <div>〒161-8570 東京都新宿区西落合3-9-19</div> <div>東京営業所 TEL 03(5982)1060(代表)</div> <div>営業所・出張所 / 東京・大阪・名古屋・福岡・仙台・札幌</div>	